

令和元年度 第2回特別展

乙百円 誕生の軌跡

日本人が初めて肖像をデザインしたお札



令和元年

令和2年

12/17(火) ~ 3/1(日)

【開館時間】 9:30~17:00

【休館日】 月曜日(祝日は開館し、翌平日休館)、年末年始(12/29~1/3)、2/9



独立行政法人国立印刷局

お札と切手の博物館

入場無料
Admission free

〒114-0002 東京都北区王子1-6-1 / TEL.03-5390-5194

<http://www.npb.go.jp/ja/museum/>

お札と切手の博物館

検索

ACCESS

JR

JR京浜東北線「王子駅」
(中央口)下車 徒歩3分

地下鉄

東京メトロ南北線「王子駅」
(1番出口)下車 徒歩3分

都電

都電荒川線(東京さくらトラム)
「王子駅前」下車 徒歩3分



令和元年度 第2回特別展

日本人が初めて肖像をデザインしたお札

乙百円 誕生の軌跡

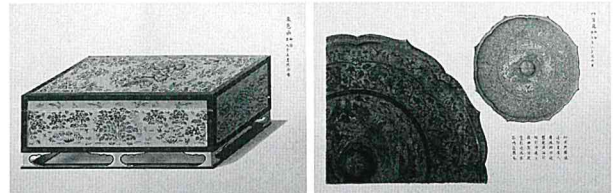
明治時代初期、日本のお札や切手は、お雇い外国人として来日したキョッソーネの尽力により近代化を遂げました。図案・原版彫刻・製版といった技術の全てを担っていたキョッソーネが印刷局を去った後、日本の技術者たちは自らの力でお札をつくる道を歩み始めます。

アメリカで技術を研鑽した工芸官の大山助一が伝えた技法を弟子の森本茂雄らが受け継ぎ、欧米の技術や様式を吸収しながら、印刷局は発展を遂げ、昭和初期に乙百円が誕生しました。当時最新の技術と日本独自の図柄を用いた乙百円は、初めて聖徳太子の肖像が採用されたお札としても知られますが、その肖像は日本人が初めてデザイン・彫刻を手がけたものです。

本展では、お雇い外国人から学んだ技術を日本の技術者たちが自ら成熟させ、生粋のお札を生み出すまでの軌跡を同時代の海外紙幣や関連資料と併せてご紹介します。



日本人が初めて肖像をデザインしたお札
日本銀行兌換券 乙100円 昭和5(1930)年



乙100円の図柄の元となった『国華余芳』(正倉院御物)



乙100円の肖像を彫刻した
森本茂雄が残したデッサン



アメリカで技術を研鑽した大山助一が肖像を彫刻したお札
日本銀行兌換券 甲100円 明治33(1900)年



在米中の大山助一が肖像を彫刻したお札
メキシコ 10ペソ 1898~1912年



「ドイツ10マルク」をお手本にしたお札 乙5円 明治43(1910)年



ドイツ 10マルク 1906年